

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0791200033	
法人名	株式会社 福祉ケアサービス	
事業所名	ホームズ くにみの郷 (なごみ棟)	
所在地	〒975-0015 福島県南相馬市原町区国見町二丁目11番地の1	
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会	
所在地	郡山市新屋敷一丁目166 SビルB号	
訪問調査日	平成28年9月16日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様が今まで送ってきた生活を大切にし一人一人のペースに合わせ“その人らしく”生活出来るように心掛けています。  
また、職員だけでなく、利用者様同士が支え合い生活を共にする仲間というよりは“家族”として日々を送っている。  
フロアが癒しの場となるよう、色彩や飾り物にも配慮している。

また、職員自身、ケアすることに思いを抱いており意志を玄関の職員写真に記載し、ご家族様などの面会者に見て頂いている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

一人ひとりのライフスタイルを尊重するために、入居後も家族からの情報を聞くなどしている。また、常日々の自己選択を大切にしながら対応を行っていた。職員が少ない中利用者とのコミュニケーションも十分図れており生き生きとした笑顔も見られていた。利用者間でのトラブルなどもなく穏やかでお互いを助け合う姿が見られていた。毎日、家族が面会に来られた時には他の利用者とも会話が弾む姿が見られていた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	廊下にあるドアに事業所理念を貼り出し、また棟理念もフロアに貼り、目に付くようにしている。 常に意識づけできるようになっている。	職員全員が理念を理解し理念に沿ったケアを行っていた。今年度は各棟理念も職員で話し合い掲示し常に意識付けが行えるようになっていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の祭り時は、ご近所が利用者様に祭りを感じられるよう配慮して下さる。また、ご近所の方が花や飾り物を提供頂いたり、近くの小学校児童が踊り等披露してくれる。	近所の方が時期を見て花壇の手入れや草むしりを積極的に行っており最初は一人であったが最近では複数名が参加されている。今年は入居者の親戚が馬追祭り前に実際の姿で馬に乗り施設を訪問された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	震災後は外部に向けての発信は滞っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者からのアドバイスは出来る範囲で取り入れている。	運営推進会議で震災時について避難先の場所についてアドバイスをもらい避難先になってもらえるよう、依頼予定先の担当者と打ち合わせを行う予定を立てていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が出席しており、その場で活動報告など情報交換している。	市の担当者が会議に参加しており、市の介護に関する事業説明を行ったり、人手不足についても親身になってアドバイスを行うなど協力的であった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ一人一人身体拘束について理解している。また、例題を作りどういったことが身体拘束になるか確認している。	言葉の拘束には力を入れており言葉により利用者の行動制限が無いように配慮されていた。棟内の勉強会でも例題を取り上げ身体拘束についての確認がされていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	棟会議など通じて日頃の言動、対応を再確認している。また、職員の精神面も配慮し虐待に繋がらないよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての勉強会は行っていないが、職員はそのような制度があることを知り、学ぶ機会が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームについて理解・説明を行い、不明なところは質問して頂けるようにしている。入居後も同様に配慮、気軽に話が出来るようにコミュニケーションを取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や家族から意見が出やすい様信頼関係を築いている。要望などがあれば迅速に対応するよう心掛けている。	家族と職員が話しやすい環境であるため直接的に要望や意見を確認し対応していた。職員が誰でもわかるように申し送りノートで情報の共有を行っていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任などが職員の意見をまとめ、主任会議で検討したり取り入れている。	職員との関係性もよくいつでも話せる環境が作られていた。職員からの要望に対しても迅速に対応されていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の身体的・精神的状態を考慮しサポートしている。連休など適宜設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に適した研修に参加することでスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会・研修に参加することにより交流を図っている。そこで情報交換しサービス向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めて入居した方は不安などがあるため、他入居者様も交え馴染みの関係を作れるようにし、積極的な関わりを持ち会話の中から探り改善に向けて信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至った経緯を傾聴し、入居に対しての想いなど把握している。不安面・要望に添えるよう情報を職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームに居ながら受けられるサービス(訪問理容など)を伝え望むサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	第二の我が家となるよう心掛け職員だけではなく利用者様同士が困っている時は手を差し伸べあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時に近況報告などお伝えしている。また、面会時はご家族との時間を大切にしよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に訪問して頂けるように心掛けている。顔なじみの方が実際に訪問している。かかりつけ医の受診やかかりつけ美容院も継続して頂いている。	近所の方の訪問があったり、家族支援で馴染みの場所に出かけたりしており現在の関係性が継続されている。家族や友人に声掛けを行い本人の希望にそって外出できるようにしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハビリやレクリエーション、行事を一緒に行うことで他者同士の関わりが持てるようにしている。家事作業の際は利用者様同士が協力しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡や来訪した時には相談等に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりを通して本人の思いを受け止め職員間で情報共有、ケアの統一を図り安心して生活出来るようにしている。	本人や家族の思いを常に受け止め、棟会議で情報共有しケア統一が行えるように職員全員が取り組んでいる。畑をつくりたいという希望があり、震災前より規模を縮小したが、再開した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報提供や利用者様との会話の中で生活歴を把握している。その人らしさを把握しケアに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で心理面の変化に気づいたり、生活パターンを把握し個々に合わせた状況に対応している。また、有する能力を活かせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	棟会議での情報交換や定期的なモニタリングを行っている。また、ご家族からの要望を聞くようにし、計画に反映している。	家族の情報や担当職員のモニタリングにより介護計画に反映されていた。定期的に見直しも行われており、職員が見やすいようにファイリングされていた。	モニタリング票に日付の記載が見受けられなかったため作成時記入忘れが無いこと、棟での書類形式の統一を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	棟会議・申し送りノートを活用し情報を交換・共有し、必要に応じて介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	キーパーソンの年齢も考慮しながら、こちらで対応できることは行っている。家族が対応できない時は気軽に相談頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の祭りの際など近所の方の協力のもと楽しむことが出来ている。小学校児童が合唱などで訪問してくれており、楽しむ時間を提供してくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続して受診して頂いている。また、書面でドクターへ状況報告し適切な判断をお願いしている。	職員での付き添いが困難である場合、家族対応となるが身体状況などのメモを作成し家族に持っていかけてもらいかかりつけ医との連携が図れていた。主治医からの情報についても指示にしたがいケアが行われていた。	情報共有の一つとしてメールなどの活用を行いスムーズな連携が図れることを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、看護師に状況を報告している。また、必要に応じてアドバイスなど受け、受診などに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合はこまめに病院訪問し入院中の状況把握に努めている。また、MSWとの調整も図っている。入院中も関係を保つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に意向確認している。その際文書で当方に対応できる事を明確にした上で家族に検討してもらっている。意向確認書はカルテに綴じ職員間で共有している。	入居時に看取りの確認を行った後、状態の変化に応じてその都度家族との話し合いを行い、確認書はカルテに閉じられ職員確認できるようになっていた。変化がある度に話し合いの場を設けていた。実際に3件の看取りが行われていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり迅速に対応できるようにしている。起こりうる急変はポスター掲示し迅速に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。地域との協力体制等、運営推進会議を通じて近隣住民と意見交換を行うも、具体的に絞り込まれていない。	施設内での避難訓練は定期的に行われていた。運営推進会議を通じて地域住民との協力体制について意見を頂き検討されていた。	備蓄品はあったが保管場所の統一を行い、備蓄箱に「非常時備蓄品」などと表示することで緊急時にスムーズに持ち出せることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドや人生観を尊重し本人に合わせた声かけを行っている。	過去の職歴に応じた言葉遣いを行い利用者が不快にならないように配慮されていた。利用者の思いに沿った行動に対しプライドを傷付けないように見守りを行っていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴し何を望んでいるかを考慮しながら対応できるようにしている。 また、こちらから決定した話しかけではなく本人の言動や行動を待ち対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・入浴時間など、本人ペースを心掛けています。時間帯・職員数にもよるが買い物などの外出にもできるだけ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容やかかりつけの美容室に行っている。本人が好む色を服や靴に取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	禁止食材の方もおり、業者協力のもと代替を行っている。また、生活リハビリとして調理の手伝いや後片付けなど行ってもらっている。	業者との連携が図れておりバランスの良い食材が提供されていた。利用者と職員が一緒になり味付けや盛り付けや片付けも行っていた。定期的におやつなども一緒に作るなどしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人が一日に食べる量や栄養バランスに配慮している。水分は水分表を使用し一日の摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方は就寝の際、介助を行っているが毎食では対応できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェック表で管理し、リハビリパンツを使用している。尿量の多い方等、状態に応じたリハビリパンツを使用し、不快に繋がらないようにしている。	利用者の仕草や行動を観察し排泄を促していた。おむつの交換を拒む利用者に対しては視点を変えて話を行いながらその人に応じた場所での対応を行っていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、乳飲料などを提供することで、排便につながるようにしている。排便チェック表で排便管理している。排便に繋がらない時は、状態に合わせて腹部マッサージも施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の時間に入浴している。また、入浴剤を使用してリラックスできるように配慮している。やむを得ず入浴出来ない時は部分浴やシャワー浴で対応することもある。	入浴に関してはいつでも入浴が行える状況であり回数にも制限が無かった。ゆず湯など季節を感じる事が出来るよう工夫がされていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や、体調を考慮しながら休んで頂いている。休息時の室温・日差しなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬の説明書を綴じ確認できるようになっている。内服時間の間隔など身体に悪影響がないよう気をつけている。副作用についても事前に調べている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意なことを見極め役割として行って頂いている。好きな演歌歌手のDVDなど流し楽しんで頂いている。嗜好品も把握し、習慣として提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を考慮しながら希望にそえるようにしているが、時間帯などで希望にそえないこともある。また、家族が外出に協力している方もいる。	近くの公園などに散歩に出かけており、その際に利用者が公園内のゴミ拾いなどを行っていた。急な外出に関しては家族が時間を作りその日のうちに対応していた。	家族やボランティアの協力を受けることで遠方への外出が実現出来ることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で手持ち金を管理している方もおり、買い物の際は自分で支払されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をかけたいという希望があれば対応している。また、遠方のお子様からハガキや手紙が届く方もおり必ず本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事が出来るようフロアの飾りつけを行っている。日差しなどに応じ室温を調整したり、湿度計・温度計で管理している。	棟内季節感を感じる飾り付けがされていた。棟内での温度差が激しいため日差しの状況に応じこまめに温度・湿度の管理が行われており利用者の過ごしやすい環境であった。利用者が好きな場所で過ごせるようにソファを置くなどの工夫がされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを2か所に設置、好きな番組や録画番組など気の合う方同士で楽しんで頂けるよう配慮している。一方で、静かな環境が好きな方には、居室で過ごせるような居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真など思い思いの装飾品や使い慣れた家具などを置き自分の居場所として工夫している。また、動線を考慮し転倒を防ぐよう配慮している。	居室内は利用者と職員が相談しながら家具などを配置し、希望があればその都度配置換えを行うなどの工夫がされていた。居室内での転倒を防ぐためにも家具などの配置も考えられていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員に頼らなくても、できないことができるように 貼り紙などをしわかりやすくしている。声かけや見守りをして出来る事を増やし自信に繋げている。		